

## 学習成果について

愛媛大学教育学部 小野寺弘倫

本授業案は、世界遺産×SDGs 教員養成プログラムにおいて作成し、優秀賞を受賞したものである。世界遺産×SDGs 教員養成プログラムは、国際的な教養知識を身に着け、SDGs 達成のために質の高い教育ができる教員の養成を目的とした大学生向けの授業アイデアコンテストである。

本授業を通して育みたい資質・能力は、異なる考えを踏まえて自らの考えを構築することができる力である。現代社会の諸課題は人々の多様な考えや価値観の対立によって生じていることが多い。持続可能な社会を実現したり、課題解決に取り組んだりしていく上で、課題が起こっている背景にある人々の多様な考え方について深く理解したうえで、公正な判断を行うことが重要であると考えている。

本授業で取り上げる主な世界遺産は、古都京都の文化財、古都奈良の文化財、ドレスベン・エルベ渓谷（ドイツ）である。古都京都の文化財は景観保全、古都奈良の文化財はバッファ・ゾーンの設定が行われている事例として取り上げることにした。ドレスベン・エルベ渓谷は、景観保全よりも人々の生活の利便性向上が優先された結果、世界遺産登録が抹消された事例として取り上げた。これらの世界遺産には、人々の生活を始めた経済活動と保護のどちらを優先するか、どのようにバランスをとっていくかという点について多様な考え方ができる。また、世界遺産の保護に関して、人間がどこまで手を加えるかという点についても多様な考え方ができる。このような持続可能な世界遺産をめぐる多様な考え方を踏まえて、これから求められる世界遺産のあり方について判断する力を育成する授業を構想した。本指導案においては、世界遺産の持続可能性をめぐる多様な考え方を踏まえて課題の解決策や社会のあり方を考える授業構成に基づく学習活動を提案している。

コンテストに応募した後、本授業案を参考にしながら卒業研究として単元開発に取り組んだ。今後は、文化遺産だけでなく自然遺産、地域の文化財などに応用できるように精緻化に取り組んでいきたい。

世界遺産×SDGs 教員養成プログラム HP（世界遺産検定公式 HP）

[https://www.sekaken.jp/sdgs/teacherprogram\\_2022/](https://www.sekaken.jp/sdgs/teacherprogram_2022/)